



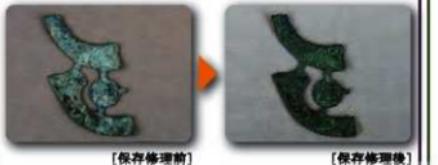
# 重文 首里城京の内蔵出土陶磁器保存修理事業とは

**沖縄県立埋蔵文化財センター**では、重要文化財を長期的に保存し、国民共有の財産として公開、活用を図るために、文化庁の補助を受け、出土品の保存修理事業を実施しています。

平成16(2004)年度から始まった本事業では、これまでに陶磁器と金属製品を合わせて200点を超える資料の修理が完了しています。

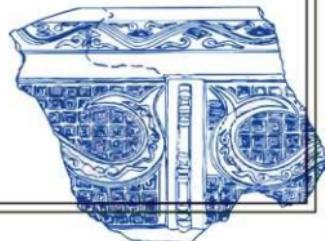
## 金属に鏽は大敵

遺跡から出土した金属製品は、そのままにしておくと鏽が進行し、形や重量、成分が変わってしまい、文化財としての価値が失われてしまいます。その鏽を進行させる要因となるのが、水分と塩分と酸素です。これらを除去しその状態を保つことが、金属製品を保管する上で重要な要素になります。



[保存修理事前]

[保存修理事後]



## 作業の工程 保存処理は高度な技術が必要なため、専門の業者に作業をしていただきます。

### 1. 保存処理前調査



[X線写真]

写真やX線写真を撮影し、出土品の状態や構造を観察します。それを踏まえて、処理の方針を決めます。

X線を撮ると、表面からは見えない鏽や亀裂などを確認することができます。

### 2. クリーニング・脱塩処理



[脱塩処理]

表面についた土や鏽を丁寧に取り除きます。その後、純水に浸し鏽の原因となる塩分を取り除きます。

脱塩は出土品を浸けた純水を専用の機械で計測し、塩分を示す数値がOppm近くになるまで純水を交換して行います。

### 3. 防鏽処理・樹脂含浸



[樹脂含浸]

防鏽効果のある薬剤に3日間浸けます。また、鏽の影響で内部に空洞ができ割れやすくなっているので、内部を補強するためにアクリル樹脂を含ませます。

### 4. 接合・樹脂強化



[樹脂強化]

割れたり剥離しているものはつなぎ合わせ、薄くなっていたり脆くなっている部分には樹脂を塗り補強します。

### 5. 保管



[保管状況]

処理後は空気を通しにくい特殊な袋に、脱酸素剤と一緒に入れ密封します。しかし、この効果は5年程度ですので、この作業をくり返し行います。

